

碩心

可認岳風會
行發會
心學吟詩
院學吟詩
日本院
神奈川

現在 150名
2月 209名
1月 39名
8年 398名
逗葉大合

(293号) 者相者愛
行 岳集岳
8年12月 藤村
加編中

一月の予定行事

○碩心会初吟会

日時・平成9年1月12日(日)10時より

会場・湘南国際村 ロフオス湘南

○県本部初理事会初吟会

日時・平成9年1月26日(日)

会場・県立横須賀労働センター

※横須賀第二地区が当番となります。

昇伝認許 (10月1日付)

285高見 巖(湘風) (10月号記載漏れお詫び)

寒河江吟友会の温情にふれて

姉妹会の絆で、寒河江吟友会25周年大会に御招待いただき、当会から加藤岳相会長、中村岳愛、松井正岳の三名が11月9日～11日にかけて寒河江に伺いました。

第一日目寒河江に到着。竹永、川越両副会長に迎えられ、車で詩吟の森へ御案内いただきました。巨大な石碑に、故松井岳洋先生の「吟魂」と刻まれたのを拝し、又故高橋岳庄会長のお姿が目につかび、更めて感を深くしました。その夜は明日の大会にそ

なえ、御招待いただいたホテルの湯につかり、ゆっくり休ませていただきました。

第二日目大会の日。車で出迎えをうけ、会場の寒河江市民文化会館へ。総本部他、東北地方の多勢の先生方の顔ぶれが揃い、少年少女の吟舞にはじまり、スライド、吟剣詩舞を交えた構成吟「孝養の人、頼山陽の生涯」等多いに盛り上がり盛会裡に終わりました。午後には懇親会となり、多勢の方々との交流を深め、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

無事大会を終えた三日目は、お疲れの中を卯月会長、竹永、川越両副会長、志田昌岳先生共々の車で、最上川ぞいにすばらしい紅葉の山々を満喫させていただきながら、朝日山麓の自然観、世界で初めてという空気神社へ御案内いただきました。幽玄なブナの森の中で鏡に映る光と、地下に納められた本殿の素焼きの瓶にこだまする音が、なんとも珍らしく印象に残りました。遠方の山々を眺めながら山を下り、最上川の鮎つりを眺めながらの鮎料理の昼食も又最高でした。

お忙しい中、何かとお心遣いいただき、ただただ感謝。東北の人情の厚さを沁々感じました。心から御礼申し上げます。(岳愛記)

県本部吟行会に参加して

第一日目 吟魂碑・記念館を訪ねて

堀内・D 新井 衛 風

11月9日は県本部主催の信濃路吟行会の日。昨夜からの雨も止み、午前7時逗子市役所前に集合。今日の旅行を楽しみにしていた頑心会の方々が待っていてくれた。私達は一号車に乗り出発。平塚農業会館前にて他支部の方方を乗せ、足柄SAにて、二号車、三号車と合流、東富士五湖道路を経て、中央道から一路諏訪市へ向う。途中、加藤岳心車輛長、上村副車輛長の挨拶と、注意事項等聞きながら、車窓から秋の景観を楽しんだ。

昼食後まもなく諏訪市内に入り、本日の目的地、地藏寺近くの駐車場に入る。ここから岳風先生の墓地までは、急な坂道を上る。お墓は松の大きな木のある静寂な境内にあり、岳風先生ご夫妻の碑と、吟魂碑が並び建っていた。各自線香をたむけ合掌。そのあと全員で「わが墓は」を献吟し、号車別に記念撮影をして下山。そして記念館を訪れると、入口に先生の銅像があり、私は手を合せ館内に入った。

館内には先生の遺品、書画、その他が展示されており、先生の業績と人となりを偲ぶことができた。

仏壇に礼拝してから、生家の道路向いにある今度完成したばかりの岳風記念館を見る。内部にはまだ建築の臭いが残っていて、これから色々と研修、その他行事に使用されるであろう立派な建物であった。出発まで15分程あったので、地藏寺境内に入り参拝、中庭にある庭園を見学。池の中を悠然と泳ぐ鯉をみながら写真を撮りバスに戻った。バスは坂道を下り、諏訪ICから中央道を下り、今宵の宿泊地恵那峡へと向った。

遠く眺める野山の景色は又格別の感があり、秋の日暮れは早く、夕暮れの中5時頃恵那峡ホテルに到着。ホテル側の熱い出迎えをうけ、ゆつくり温泉につかり、一日の疲れをとった。夕食後は団長の挨拶、乾盃、そのあとカラオケ、奇抜な仮装行列、踊り等がつづき、賑やかで楽しく、時間の経つのも忘れるほどで、楽しい一日目の旅は終わった。

俳句 衛 風

地藏坂心なごます菊の花
山上の天守に映える紅葉かな

第二日目 藤村記念館・合掌村へ

堀内・A 杉山 岳 雪

北に笠置山、南に焼岳、美濃の山々に囲まれた恵那峡の朝。深い霧に包まれ、刻々と変る三方の山々の姿、木曾川の清流。しつとりと感じる盆地の空気が、心地よく肌に沁みる。

8時、ペテランドライバー、美人ガイドさんの乗る一号車で、恵那峡国際ホテルを出発。恵那山、舟杖山を前方にみながら中津川大橋を渡り、初冬の山里をバスは快適に走り木曾路へ。そして最も南に位置する馬籠に着く。

神奈川大磯で79才の生涯を終えた文豪島崎藤村の生地である。当時を忍ぶに充分な坂のある町並に藤村記念館がある。冠木門をくぐる、きれいに整理された敷地内には、記念堂、中心に記念文庫、明治から昭和に至る詩集のコレクション等がすばらしい。藤村文学の詩や小説の舞台となった清らかな水の流れ、水車のあるのどかな里に別れバスに乗る。木曾川の支流に沿い、どこまでもつづく檜の山、紅葉も今が最高。車窓より見る変わりゆく山々の姿は、旅する者の心を慰めてくれる。飛驒

の山裾を走る高山本線と飛驒川が見えかくれするうち、下呂合掌村へ。弘法山の丘陵地に約150年前の大戸家、重文を中心として合掌作りの民家を配し、往時の生活を知ることができ

る。ゆつくり見学をして、次に偶々高山文化協会にゆくことになった。玉峯吟詠会飛驒支部創立20周年に出あい、男女で神州、富士山、常盤抱孤図の三題を吟じ、思いがけない出逢

だつた吟友の皆様とお別れした。そろそろお腹もすいてきた頃、飛驒民族村に到着、昼食をすませる。五阿弥池を取りまくように合掌造りの藁葺屋根の家が並んでいる中に、国指定重文の旧家があり、クリの木を使った切妻板葺き石置屋根で、高山地方の同形最古のものと言われ、田中家と記されていた。

山里の日暮れは早く、とつぷりと暮れたせせらぎ街道をバスは走り、今宵の宿郡上八幡の灯が明るく迎えてくれました。

短歌

岳雪

御岳を源として流れくる

水の清きを永久にと祈る

第三日目 郡上八幡・犬山城へ

一色 鈴木 岳抄

郡上八幡ホテルを8時30分出発。バスは20分位で八幡城駐車場に到着。郡上八幡は奥美濃の小京都といわれ、格子造りの家や、武家屋敷が立ち並び、風情ゆたかな町で、夏は郡上踊りで賑やかといわれる。郡上八幡城は標高354米の山頂に建ち、八幡町を一望出来、天守閣には宝物が数多くあつたが、残念ながら見る時間がなかった。

これよりバスは東海北陸道を走り、岐阜の犬山城に到着。犬山城は木曾川の南岸にそそり立っている。天文6年現在の位置に天守閣が造られ、日本最古の城で、桃山風の天守閣は白帝城と親しまれた。そして昭和10年5月13日に国宝に指定された。私は天守閣まで上り一周して四方を眺め、何ともいわれぬ良い気分になりました。

城を出ると雨が降り出し、昼食をすませ又バスに乗り、東名道を走り無事帰着。楽しかった三日間の吟行会でした。御同行の皆様には何かとお世話になりありがとうございました。

悠久の長江での奇遇

堀内・D 五十嵐 瑠璃子

10月29日、成田より上海へ。次に中国南方航空に乗りつき武漢へ。そして翌30日の朝「東方皇帝号」に乗船、三峡の旅への出航のドラが鳴った。三峡とは、中国大陸を横断する世界第三の大河、長江（揚子江）の途中にある瞿塘峡、巫峡、西陵峡の三つの峡谷で、急流と高山がおりなすスケールの大きな渓谷美に、杜甫、李白などの詩人も魅せられた古くからの峡谷である。この三峡を武漢より重慶まで（650軒）四泊五日のクルーズを豪華客船で逆行しようというのである。

午後、三国志で有名な赤壁で下船。此処は弱い方が強いのに勝った戦で有名な所である。諸葛孔明が東風を呼ぶ為に祭壇を築き、天を祭った拝風台、その風を利用して曹操軍を火攻めにして壁が赤く染まったので「赤壁」と呼ばれるようになったという。

10月31日、沙市に下船観光。李白の詩に「千里の江陵一日にして帰る」の江陵は沙市の事である。関羽が守っていたので有名な荊州故城。博物館には春秋時代の楚国の漆器やし

ルク、又二千年前のミイラが生々とした表情で眠っているのには驚いた。

そして夕食後のカラオケ大会では、成田から御一緒の小磯仁一氏が「白帝城」の詩を吟じられた。岳風会の横須賀第一地区と伺い、奇遇に驚いた。いよいよ明朝はダム現場を通る予定。ふと外をみると、船は時間調整のため宜昌に停泊している。黒々と流れる長江。見上げるとオレンジ色に鈍く光る半輪の月。

ボツンと民家の灯。25才の李白が同じ月を見あげ作詩した「峨眉山月の歌」。戦に疲れた劉備、孔明、曹操も眺めた同じ月…。杜甫にあやかり、日本からもつてきた日本酒で乾杯すると何処からか聞える「峨眉山月の歌」。ウソ!!と廊下に顔を出し探すと、どうも隣かららしい。高音のよく透る声に、顔は見えない方がよい(ゴメンナサイ)と吟を聞きながら又呑む。そういえば乗船してから毎晩聞こえたような気もする。

11月1日、晴天の宜昌を出発。いよいよ目前に三峡ダムの工事現場が見えてきた。百億七千万ドルの費用と、十八年の歳月をかけて、世界最大の水力発電がもうすぐここに誕生するのだ。百十万以上の人々が住みなれた家や

土地を離れて移住しなければならないという。沿岸の平和な農村の生活も、そして三峡も数年でダムの底に沈むのである。

やがて船は三峡で最長の西陵峡(75料)に入った。隣は何をする人ぞ…。謎の吟者に出逢ったのは昼食前であった。ドアの前に立つたその人は「森合です」と名乗った。「毎晩聞かせて頂いております」に始まり「葉山」「東伏見台で先生は沼田義岳さん」と聞き、私はただおどろくばかり…。12億の人口の中国で、日本人観光客の多い三峡で、それも船客120人中の隣室という偶然の出逢いの不思議さ。計算しても出来ない面白さに、神様のいたずらを感じた。そして一期一会のきびしさ^{いちごいちえ}を考えると一瞬の大切さを思うのである。横須賀の小磯さんに森合さんを紹介し翌晩デツキで合吟の約束が出来る。(次号につづく)

逗子詩吟詩舞発表大会

11月3日、逗子の文化祭の一端として、右会が開催されました。天候にも恵まれ、小学校の校庭では運動会も行なわれていました。書、華、吟、舞などいつものように盛り沢

山の内容です。プログラム通り順調に進み、素晴らしい大会でした。本大会は色々な団体が共演するため行違いも多く、ここまで来るのに大変でした。でも役員の方々の御苦労が実り、予定より早く終わりました。

この大会に、この間亡くなられた西村昌岳さんが、佳香会より「富士山」を舞うことになつており、一緒にお稽古をしていたことを思うと、胸がいつぱいになり、何時もの大会とは又違う思いで残念でした。(磯村記)

葉山町詩吟詩舞発表会

11月17日(日)最高のお天気でしたが、今年は県本部高段者講習会にぶつかり、何人かの先生、受講者の方が参加できず残念でしたが、マジックとの共催もあり楽しく終了しました。

(支部長交替)

桜山支部(37)西村昌岳死亡に付(83)石月翹岳に

(入会)

457 飛田與子(再) 横須賀市池上七ー四一七

(堀内F) ☎〇四六八一五二一五九六〇

(退会)

58 三留岑岳(堀内D) 196 近藤正風(死)(星山)

259 矢田香風(逗子A) 452 大塚竹要(下山口)